研究だより

入新井第五小学校
研究推進委員会
Ｒ５年１０月３０日（月）
第　４　号

3年　総合的な学習の時間「安心・安全生活マップを作ろう」

◎授業について

地域安全マップの取り組みは、模造紙にマップを作って終わりといういわば形骸化した活動になってしまうケースが多くあります。そこで３年生では、作ったマップを地域に役立ててもらうにはどうしたらよいか計画を立てました。１学期の総合的な学習の時間では、児童が登下校時や放課後に歩く道について、危険だと感じることを発表し合ったり、文章にまとめたりしました。その中で「幼稚園の近くで小さな子どもが多いのに車がスピードを出していた。」「段差で高齢者が転んでしまいそうになっていた。」など、地域の人々に目を向け、自分たちが発見した危険を学級の友達以外にも伝えたいという思いをもつ児童の発言がありました。２学期の学習を始めるにあたり、どのように学びを発展させたいか問いかけたところ、以下の意見が挙がりました。

・安全に詳しい人（警察官）に話を聞きたい。もっと詳しく調べたい。
・出来上がったマップを学校全体や地域の人々に知らせたい。

そこで、町内会の方や大森警察スクールサポーター、PTA 郊外部などと情報交換する時間をもつこと、調査の視点を明確にすること、マップを校内外に発信していくことに取り組みました。児童が総合的な学習の時間を通して自分の調べたことや作った地図が他者に認められ、地域の一員として役立っていると感じられるような授業を計画しました。

研究授業では、町内会長、民生児童委員、大森警察、交通安全指導員、児童館職員、PTA 役員など普段から児童を見守ってくださっている方々１２名をゲストティーチャーとして招きました。児童は作成したマップを発表し、ゲストティーチャーに頑張りを認めてもらったり、新たな視点や情報を与えてもらったりしました。「防犯カメラがもっといっぱいあることが分かりました。」「学校の前の道は、私が思っているよりもっと危険だと教わりました。」など、交流を通して児童は学ぶことができました。得た情報をマップに書き加え、学校だより特別号として全校に配布、町内会掲示板に貼ったり回覧板に入れてもらったりして地域の安全に貢献しました。

☆指導・講評

〇地域の一員としての自覚をもつことが今回の授業のポイント。授業を通して、下校する通学路を歩く子どもたちの意識が変わる。本時での学びが活きる。

▲最後の１０分は、学びを共有する時間にしたい。児童の心に残る終わり方を教師がコーディネートする。

▲ゲストティーチャーの条件は、何回来校できるか、職種、年齢、グループ構成、どんな内容を話せるか考える必要がある。心から来てよかったと感じてもらえるような活動になるように意識する。今回の授業でも、ゲストティーチャーの話の時間をもっと確保したほうがよかった。